

## 【エッセイ】

### 北欧ツアー

前川 美和

北欧フィヨルド10日間の旅に夫婦で参加した。開空でツアーのメンツ39人を見たときには、あまりの高齢者揃いに大丈夫かしらと思っただけ、皆さんお元気。動く、撮る、食べる、飲む、買う、しゃべる。

一人参加が一人と、友達同士が二組いたがあとは定年で退職した夫と糟糠の妻のカップルで占められていた。体力あるうちに飛行時間の長い国を訪れておきたいという考えも共通しているようだ。

夜10時11時になってもなかなか日が落ちないノルウェーのフィヨルドやオスロからデンマークまでの豪華クルーズのすばらしさもさることながら、旅の先々で垣間見る様々な夫婦の形がおもしろく楽しい旅になった。

まずM夫妻。ご主人はかなり高齢だったと思うがすっとした様子で背広を着てハットを被り、カメラ片手にすばやく絶景ポイントに移動する技をいかに発揮してらっしゃった。聞けば、建築関係の仕事に長い間携わっていらっしゃったが、胃の全摘手術を受けられてからは食が進まず、消化のよいものを少量ずつ時間をかけて召し上がらなければ逆流が起こるそうでバイキング形式の食事のときは、奥様がご主人が食べられそうなものをみつくろって取って来て勧めていらっしゃった。

もともと、ご主人は山登りが趣味で主な山は制覇された時点で体を壊され、その後は奥様がポーター代わりに重い荷物を引き受け、お二人でご主人ペースで山歩きを楽しんでらっしゃるそうだ。今はご主人の登ったことのない山ということで必然的に名の知られていない山ばかり登っているから、たまには槍ヶ岳・剣山など有名な山に挑戦してみたいとは奥様の弁。ご主人を中心に精神的にも肉体的にもしつかり支える「やまとなでしこ」健在といった感がある。

次にS夫妻。奥様の声は低くドスが利いていて玉緒さん、顔はどこなくイツコーに似ていて、ぶつきらぼうで怖い印象だった。それにひきかえ、ご主人は従順でのおどおどしている感じがしたが、実は高校の高校の先生をしてらっしゃったそうで人は見かけらよらないものだ。

定年後は週三回働いて自由時間には卓球とカラオケに費やしているらしい。奥さんの野太い声で、カラオケの練習をするご主人の声がうるさいだの下手の横好きだのと言いつつながら、夫婦でこうしているんなところに行ける幸せに感謝し、今を楽しんでいらっしゃるようだった。

その一方で、いつ何があるか分からないから最近身の回りの整理を始めて、使わないものはどんどん捨てているから二階は空っぽになったわとガハと笑ってらっしゃった。

子どもに片づけさせたり捨てさせたりするのは、忍びないと身辺整理しはじめている方も多いようである。

H夫妻は和歌山から参加のおしどり夫婦。

ご主人はいつでもどこでもビデオカメラ片手にいかに奥様が美しく撮れるか苦心なさっていた。その結果、常に奥様がヒロインのロードムービーが完成するわけで、オーデイエン

スの不満が噴出するらしいが、奥様の趣味のカラオケの発表会でも衣装や姿をプロのカメラマンが写すような質感を出すため、日夜研究なさっている。

そしてアシヤのマダム御一行。実際は須磨の三姉妹と末娘のご主人の4人。下の妹さんは毎日、個性的で華やかなトータルファッション、つまり帽子から靴まで統一されている、を身にまといさつそうと闊歩なさっていた。日本人のファッションはともすれば地味になり背景に埋没してしまいがちだが、彼女のファッションはカラフルな北欧の人々の装いにひけを取らないくらい鮮やかなものだ。夫をアゴで使う様を見とがめられ「アジアマダム」というニックネームをいただくことになったが、優しい旦那様を愛してらっしゃることは言葉の端々にうかがえてほほえましかった。上のお姉さんたちはもう七十を超えていると思うがよく食べよく、飲みよく、しゃべること。一番上のお姉さんと高齢出産の卵子の老化の問題や、人工授精、代理出産などの疑問点など話し合い、意気投合した。

平均年齢65歳、最高年齢75歳数名の超高齢ツアーのメンツは、フォーリンラブの女芸人（バービー）に似た元氣一杯の添乗員さんに「添乗員史上に残る協力的で気持ちのよいグループでした」ともちあげられつつ、無事閑空にたどり着いた。

へ了へ